



東星渡部建設株式会社(山村五十三代表取締役)の皆さんが5月25日、奥春別小学校と川湯中学校のグラウンド整備を行いました。子どもたちのためにと昨年に引き続き行ったもので、除草や転圧など、とても丁寧に作業を行っていました。



株今道東建設工業(今誠代表取締役)とクニオカ工業株式会社(同)の皆さんが5月28日、川湯小学校のグラウンド整備を行いました。2社合同で行うのは初めてです。除草や転圧、傾斜の修正などを行いました。



大成口テック株式会社北海道支社弟子屈営業所(齋藤隆事務所長)の皆さん7人が6月13日、町営球場の整備を行いました。役場建設課による測量の後、グレーダーで表土を整地し、タイヤローラーで転圧しました。

## 地域の役に立ちたい 社会貢献いろいろ



開成建設工業株式会社(小澤由明代表取締役)の皆さんが5月17日に昭栄小学校、同28日に弟子屈小学校のグラウンド整備を行いました。子どもたちの喜ぶ顔が見たいと毎年行っています。また、6月5日には町営球場と泉ソフトボール場の整備も行っています。



株今道東建設工業(今誠代表取締役)の皆さんが5月24日、900草原入り口3キロ区間と町道釧路川右岸線12キロ区間の清掃を行いました。昨年に引き続き行ったもので、道路の清掃とごみ拾いを丁寧にっていました。

### 5月31日～6月2日 広々とした牧場で草をはむ 900草原に牛が入牧



900草原に放牧される牛たち

5月31日から6月2日の日程で、酪農家で育てられた若牛が、家畜車で運ばれ、広大な町営牧場・900草原へ放牧されました。今年は1,311頭

(6月14日現在)もの牛が集まりました。

多くの牛たちは牛舎で育てられているため、なれない牧場に初めは戸惑っている様子。この後11月ころまで、広々とした草場で栄養ある牧草を食べ、たくましく成長して畜主のもとへ戻ります。

### カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけます。お気軽にご連絡ください。



企画財政課企画係 ☎482-2913 (課直通)

### 6月2日

#### 今年のテーマは人と森とエゾシカの共生 摩周・水・環境フォーラムを開催

井田さんの講演に聴き入る参加者



第12回摩周・水・環境フォーラムが6月2日、弟子屈町公民館で開催されました。

摩周水系西別川流域連絡協議会・摩周水環境保全実行委員会・虹別コロカムイの会の主催で、西別川の環境保全を目的に毎年開催されています。今年のテーマは「人と森とエゾシカは共生できるのか」。講師は一般社団法人エゾシカ協会の井田宏之理事・事務局長で「エゾシカの現状・課題・対策を共に考える」と題して基調講演を行いました。また、弟子屈・標茶・別海の3町と虹別コロカムイの会によるエゾシカ対策の現状報告と全体討論も行われました。

### 6月1日～2日

#### 自転車長距離走で弟子屈を満喫 初めてのグランfond摩周

桜咲く道東を駆け抜ける参加者



第1回グランfond摩周(同実行委員会主催)が6月1・2の両日、町内などを会場に行われました。

1日には、津別峠を登るタイムトライアルや安全走行講習会、交流会を開催。2日には、順位やタイムなどを競わずに自転車での長距離走を楽しみました。摩周湖・屈斜路湖・美幌峠・標茶町の多和平などを巡るロング(158キロ)・ミドル(108キロ)・ショート(50キロ)の3コースに、道内外から集まった8～72歳、約140人が参加し、雄大な道東の風景を楽しみながらゴールを目指しました。

### 6月24日

#### 釧路川ってきれいだね、気持ちいいね おひさま・川湯両保育園児が川下りを体験

跳湖橋をくぐって釧路川へ



おひさま・川湯両保育園(清水節子園長)の年長児が6月

24日、釧路川の川下りを体験しました。

地域の子どもたちに、ボランティアで環境教育プログラムを提供している屈斜路ガイドステーションわか(木名瀬裕裕代表)の主催で毎年行っているもので、今年で10回目です。ガイドが同乗したネイチャーボート4艇に23人の園児が分乗。水の感触を楽しみ、魚や水鳥を長めながら、屈斜路湖から釧路川美登里橋まで約3キロの川下りを楽しみました。

### 6月23日

#### エコミュージアムセンターの自然ふれあい行事 イソツツジのお花畑を堪能

説明を聞きながら散策



川湯エコミュージアムセンター主催の自然ふれあい行事「イソツツジのお花畑を歩こう」が6月23日、町内外から10人が参加して、つつじヶ原自然探勝路で行われました。

この日は好天に恵まれ、例年に比べて開花が遅れていたイソツツジも、ほぼ満開に。参加者の皆さんは、阿寒国立公園の特徴である森と湖と火山の話にアイヌの生活史を織り交ぜた説明を受けながら、高山性植物のイソツツジがなぜ低地に自生しているのかの秘密に迫りました。説明を聞きながら歩くことで、硫黄山と周辺環境とのつながりや、植物を巧みに利用したアイヌの人たちの暮らしぶりを実感しました。